

産業建設常任委員会報告

宝塚市における水道事業会計決算と安定した水源の供給確保について

宝塚市水道ビジョン

- 水道ビジョン

新水道ビジョンにおいて水道事業者や都道府県の役割分担を改めて明確にし、水道事業者等の取り組みを推進するため、作成を推奨されています。

施設の再構築等を考慮した「アセットマネジメント」の実施並びに「水安全計画」及び「耐震化計画」の策定を必須事項とし、これらを戦略的アプローチとして、水道事業における体制強化を図ることが求められています。

- 水源の種類と内訳（安定した水源を求めて）

宝塚市の水源は、地下水とダム水で全体の約3分の2をしめており、残りの約3分の1は県営水道及び阪神水道企業団からの受水で市医療を確保しています。

特に宝塚市は過去に人口が急激に増加した経緯などがあり、昭和30年代中頃から40年代にかけて水源の確保に苦慮したことから、宝塚市のような事業規模では珍しく水道専用ダムを保有しています。

令和元年度宝塚市水道事業会計決算認定について

産業建設常任委員会報告書「令和元年度宝塚市水道事業会計決算認定について」

(概要)

- 令和元年度水道事業会計決算について、地方公営企業法の規定により、議会の認定に付するもの。

- 収益的収支**

収入総額(仮受仮払消費税を含む決算額) 46億6,717万4,314円

支出総額(仮受仮払消費税を含む決算額) 55億2,793万5,375円

差し引き8億6,076万1,061円の赤字となり、消費税などに伴う経理処理をした結果、当年度は、9億7,436万1,192円の純損失となった。

- 資本的収支**

収入総額 25億3,581万2,356円

支出総額 28億2,391万7,927円

差し引き2億8,810万5,571円の資金不足が生じたが、損益勘定留保資金などで補てんした。

令和元年度宝塚市下水道事業会計決算認定について

(概要)

- 令和元年度下水道事業会計決算について、地方公営企業法の規定により、議会の認定に付するもの。

- **収益的収支**

収入総額(仮受仮払消費税を含む決算額) 46 億 778 万5,399 円

支出総額(仮受仮払消費税を含む決算額) 41 億8,149 万3,884 円

差し引き4 億2,629 万1,515 円の黒字となり、消費税などに伴う経理処理をした結果、当年度は、4 億1,065 万6,164 円の純利益となった。

- **資本的収支**

収入総額 10 億3,158 万8,613 円

支出総額 29 億7,697 万4,427 円

差し引き19 億4,538 万5,814 円の資金不足が生じたが、損益勘定留保資などで補てんした。

宝塚市の水道流域

浄水場施設

1. 小林浄水場 所在地：宝塚市亀井町1番23号
2. 亀井浄水場 所在地：宝塚市亀井町9番46号
3. 生瀬浄水場 所在地：西宮市生瀬東町4番1号
4. 惣川浄水場 所在地：宝塚市すみれガ丘4丁目2番1号
5. 小浜浄水場 所在地：宝塚市小浜3丁目5番20号
6. 川面浄水場 所在地：宝塚市旭町3丁目92番地
7. 玉瀬浄水場 所在地：宝塚市玉瀬字細尾1番地35
8. 川下川ダム 所在地：宝塚市玉瀬字イズリハ

宝塚市の水道流域（自己水源と阪神水道と県水道）

配水区域

1. 小林・亀井配水区域

区域の目安：武庫川右岸，逆瀬川より南側

2. 生瀬配水区域

区域の目安：武庫川右岸，逆瀬川より北側

3. 惣川配水区域

区域の目安：武庫川左岸，阪急売布神社駅

より以西，JR宝塚線より北側，旧国道176号線以北

4. 小浜・県水配水区域

区域の目安：武庫川左岸，阪急売布神社駅より以东，

阪急電鉄平井車庫より以西，旧国道176号線以南、西谷地区

5. 川面配水区域

区域の目安：武庫川左岸，阪急電鉄平井車庫より以东

6. 阪神水道と県水道



宝塚市の水道料金について「宝塚市の水道料金は高い？」

下記項目について、阪神間（神戸、大阪市、全国平均を含む）の比較

	口径20ミリ			
	分担金 (円)	①基本料金 (円)	②50m3 従量料金 (円)	①+② (円)
宝塚市	130,000	2,000	4,300	6,300
伊丹市	136,000	1,040	5,350	6,390
川西市	288,000	1,400	6,600	8,000
西宮市	75,000	1,910	5,170	7,080
尼崎市	124,000	1,100	5,360	6,460
神戸市	60,000	1,760	4,450	6,210
大阪市	0	1,700	3,380	5,080
全国平均	-	-	-	-

※分担金、基本料金、従量料金は、消費税抜額です。

指標（管路に関する指標・経営に関する指標）は平成30年度末時点の数値です。

西宮市の分担金は口径別ではなく、戸数に応じた料金となっているため、最小（10戸以下）の金額を記載しています。

宝塚市の水道料金について「宝塚市の水道料金は高い？」

総配水量の水源別配水量及び受水費等内訳

		平成30年度			令和元年度			
		水量(m ³)	単価(円)	金額(円)	水量(m ³)	単価(円)	金額(円)	
受水計		13,505,017	—	1,246,053,598	14,382,245	—	1,309,637,312	
	県水	6,531,423	124.3	811,733,304	6,538,632	124.3	812,428,680	
	阪神水道企業団	6,966,460	62.2	432,971,833	7,836,340	63.3	495,814,281	
	伊丹市	2,509	165.0	413,985	2,420	165.0	399,300	
	川西市	4～9月	2,199	201.0	441,999	2,380	203.0	483,140
		10～3月	2,426	203.0	492,478	2,473	207.0	511,911
自己水		11,259,763	—	—	10,517,926	—	—	
合計		24,764,780	—	1,246,053,599	24,900,171	—	1,309,637,312	

宝塚市における安定した水源確保

- 宝塚市における安定した水源の確保や、老朽化した小林及び亀井の両浄水場の更新という二つの大きな課題を解決するため、平成27年度より阪神水道企業団甲山調整池からの受水施設整備に着手しました。以降、順次施設整備を進め、平成29年4月に一日最大給水量 $10,000\text{m}^3$ の受水を開始し、平成30年4月には $27,350\text{m}^3$ の計画給水量全量の受水を完了しています。
- 宝塚市における自己水源の他、阪神水道（阪神水道企業団）および県水道からの安定した水源を確保することにより、市民の皆さまに安心して頂ける供給を今後も目指してまいります。

産業建設常任委員会からは、令和元年度の上下水道事業会計の決算認定をベースに、宝塚市の水源や、水道の供給の状況などについて報告します。

宝塚市の水源は、地下水とダム水が3分の2を占めており、残りの3分の1は、県営水道及び阪神水道企業団からの受水で確保しています。

また、宝塚市は水道専用のダムを保有しています。

令和元年度宝塚市水道事業会計決算については、収益的収支については、9億7000万円余の純損失となっており、資本的収支については、2億8000万円余の資金不足が生じていますが、損益勘定留保資金等で補填しています。

収益的収支が、9.8億円を超えた損益の理由ですが、小林及び亀井浄水場が施設の老朽化に伴い、現在稼働停止しており、収益性がない遊休資産として取り扱っているため、経理上の処理で約7億7000万円を特別損失額として計上したこと、人口減少や節水機器などの普及により、給水収益が年々減少したこと、令和元年度は、川下川ダムの渇水によって、阪神水道企業団からの受水費が増加したことが主な原因です。

下水道については収益的収支が結果的に4億1000万円余の純利益となっています。

資本的収支は、19億4500万円余の資金不足が生じていますが、損益勘定留保資金等で補填をしています。

人口の減少などによって、下水道使用料収入が年々減少している一方、宝塚市には、下水処理場がないため、県の流域処理場で汚水を処理してもらうのに、毎年度多額の負担金を使って支払っています。

その汚水処理に係る収入と支出では、実は支出の方が多くなっていますが、今年度は一般会計から約6億円の補助金を受け取っているため、収益的収支が黒字となりました。

資本的収支の資金不足の理由としては、収益的収支では約4億円の黒字でしたが、返済すべき企業債が約25億円あるため、資金が不足している状態です。

しかし、このまま毎年黒字であれば、借金の返済も年々減少しているため、令和7年度以降には資金の留保も見えていくとの見解を示しています。

宝塚市の水道料金について、宝塚市の水道料金は高いと言われることが多いですが、宝塚市、伊丹、川西、西宮尼崎と、阪神5市と神戸市大阪市と比べてみると、水道基本料金は、2000円で他の市よりも高くなっています。

次に従量料金という実際に使用する水道の料金ですが、1家庭を4名と考えて、1か月で使用する目安は50立方メートルとなります。

この基本料金と従量料金をプラスしますと、6300円ということで、阪神5市と比較しても、実は安いというふうな結果になっています。

平成27年度から阪神水道企業団甲山調整池からの受水施設整備に着手し、平成29年4月には受水を開始し、平成30年4月には予定していた給水量全量を受水しています。

宝塚市では、自己水源のほか、阪神水道や県水道など、多くの水源を確保することにより、市民の皆様が安心していただける供給を実施しています。